

生活新聞

1991

No.166

博報堂生活総合研究所

ハイセイ新人類

昭和新人類、怒る。

「・・・たく、

平静なんだから、平成新人類」



比べてみました、7年前といま——変化への3効果

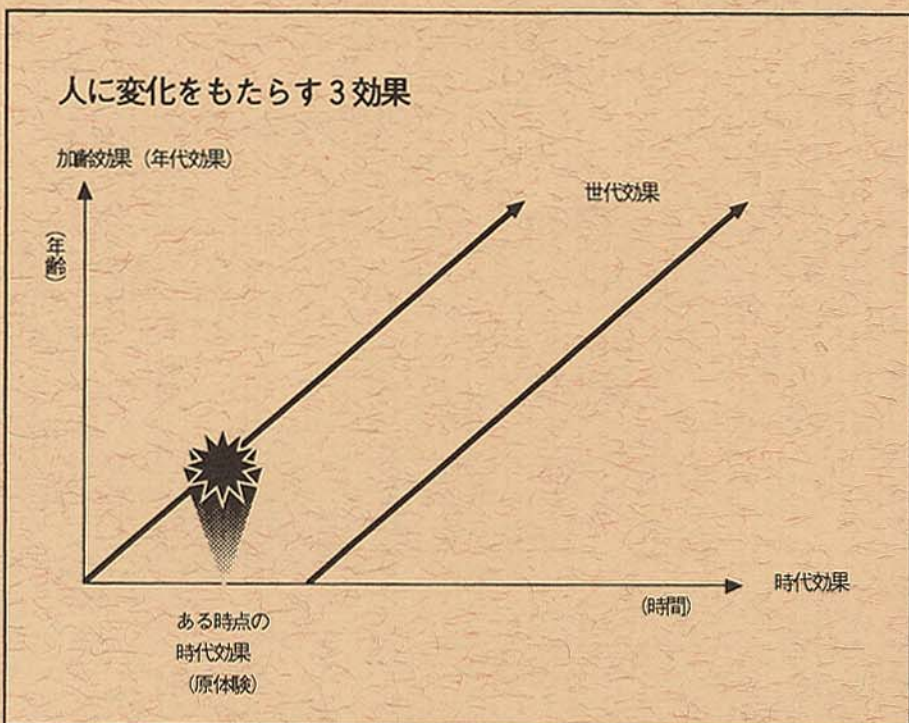
昭和の御世のことだと覚えております。新人類とやらが出現したと報ぜられました。あれから、もう6~7年。久しい昔のことに思われます。時は巡りて、平成と転じ、都大路を練り歩く若者も、すっかり変わってしまったと巷の噂。さて、その真偽のほど……

で、古文書を取りだしてみました。生活総研が1984年に実施した「若者調査」。それと同じ質問票で、いまの学生と、20代後半の2グループに調査をかけました。つまり、私達は、ここに過去と現在、3つのグループの調査結果を得たわけです。

この3つの結果があると何がいいか。それは、3つの効果を識別することが（完全ではないにしても）容易になるからです（図参照）。

7年目の若者調査概要

（現在18歳~22歳の女子短大生と男女大学生500人ならびに、7年前に短大または大学に通っていた現在25~29歳の男女社会人300人。いずれも首都圏。調査時期91年9月。それと84年の「若者調査」中の短大生・大学生567人の結果とを比較/84年数字は当時の学生男女比率で拡大修正済）



「人々が変わった。あるいは変わらない」というとき、そこには、まず「時代効果」が働きます。どの年代（年齢）の人も、その時代の影響を受けるでしょう。年代をこえて、同じような変化を示したときが、それに当たります。

「加齢（年代）効果」は、年を取ると、人は誰もが変わっていくということです。普通は、大人になった後は、年を重ねるほど、保守的になるといったこと。

最後の「世代効果」は、日常語では、年代と同じように使われますが、ベビーブーム世代といったように、原体験を共有する人々をいうわけでしょう。

ですから、生まれたときの状況から、ベビーブーム世代と呼ばれる一大集団は、大学のころの体験から、全共闘世代とも呼ばれたりします。以上の3効果の関係、一言でいえば、「全共闘世代も40代（年代）となって、同窓会をひらくんだってさ。世の中も、保守化（時代効果）したものだよね」といった具合になります。

世代とは、メンドクさい言い方をするなら、「ある時点の時代効果を引きずり続ける出生時を同じくする集団」ということですね。はたして、昭和新人類（7年前に学生だった諸君）は、世代としての刻印を背負っているのでしょうか。年を取ったという加齢効果はどうでしょう。あるいは、平成新人類（いまの学生）は、若いという年代のあらかずもの以外に、昔の学生とは違った新世代の特徴といったものを示しているのでしょうか。そして、いまの学生、社会人がともに、昔とは変わってきているといった時代効果も表れているのでしょうか。また、7年位では変わらない時代効果がゼロのものは何でしょうか。

平成新人類は、情報にうとい——世代効果

数字の意味は、最初が7年前学生だった社会人のイエスの率、次が7年前の学生（この両者が昭和新人類）。そしていまの学生（平成新人類）の結果である。

1. 「情報をつかいこなす」よりも「情報に振り回される」といまの学生は感じている。————— (38←37, 47)
2. 「情報通」であるよりも「情報に遅れる」方だと思っている。————— (43←41, 55)
3. 「流行に敏感」よりも「流行に関心がない」。————— (56←54, 63)
4. そして「マスコミ重視」というより「仲間内情報を重視」する。————— (72←72, 79)

↑

左の2つと、ここが違う

◆
平成新人類は《情報疎遠タイプ》だ。一方、昭和新人類は《情報大好き人間》。別の質問への結果でも、25～29歳の彼らは、現役学生よりも、ファッション、化粧品、店情報、食べ物、雑貨、街通り、インテリア、車、ライフスタイル、メカ、旅行、ビジネス、流行などで、より高い情報感度を保ち続けている。

◆
昭和新人類が学生のころ、つまり、1984年ころは、テレビの深夜番組は元気だった。DCブームも続いていた。店には行列が出来たし、ニューアカの本は売れた。みんなで、時代の突端を面白がっていたね。それに比べると、平成新人類は、平静だ！！

◆
1991年春に実施した首都圏高校生400人の調査でも、「情報通」よりも「情報に遅れがち」が65%にのぼっている（博報堂生活総研・特報「ハイスクール白書」参照）。

5. 「食べるために働く」よりも「遊ぶために働く」と考えている。————— (60←57, 71)
6. 「仕事が生きがい」よりも「遊びが生きがい」である。————— (65←64, 72)
7. 「一つのことに熱中」というより「色々手を出す」傾向がある。————— (59←61, 66)
8. 「細く長く」と同じ位「太く短く」派がいるのは他と違う。————— (44←45, 50)

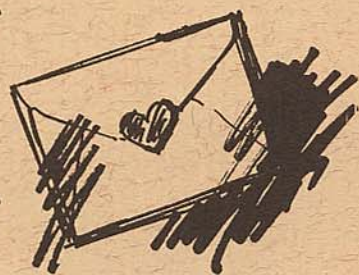
◆
昭和新人類が登場したころも、遊び志向が指摘されたが、いまの学生の遊び気分は、もっと進行している。でもね、遊びといっても、楽器演奏とか、サーフィン、オートバイといったシンドイ趣味は下がって、もっとお気楽なカラオケなどが、いまの学生はお好きな様子。「クラブなどに打ち込んでいる時に生きがいや充実感を感じる」学生は、7年前の34%から25%へと下がってしまった。また、遊び志向でも、酒を飲まない率は高まり、喫煙者の比率も下がっているのが興味ふかい。

9. 「シブイと言われる」よりも「カワイイと言われたい」のだ。————— (39←36, 45)
 10. 友達付き合いは「浅くて広い」よりも「狭くても深い」方だ。————— (74←76, 83)
 11. 「ロマンティスト」であるよりも「リアリスト」である。————— (29←30, 41)

◆
 仲間といると落ち着く人も、かつての学生よりも多い。仲間集団の中で、互いにカワイイ存在でありつづけ、突出しない、リアリスト。これは、大学進学目的として「就職を有利にするため」だという人が、7年前の学生の40%に対して52%に上ることにも表れている。ただし、「いま一番ほしいもの」として「自由」「地位」「お金」「能力」などをあげる人が減り、「愛」「幸せ」「恋人」「容姿」が増えたのは、どう解釈すべきか。リアリストぶりも口ほどでもないということか。あるいは、身の辺のことを現実主義的に、セコク、追及していく小心リアリストということか。

◆
 その他、もろもろ、いまの学生の特徴をあげてみよう。

- ◆
 12. 愛を告白するのに「直接打ち明ける」よりも「ラブレターを書くほうが恥ずかしい」という傾向は、いまの学生ではますます強い(55←52, 61)。この解釈は?
 13. ウールスーツを持つ男子学生が急増。いまの学生は社会人並み(96←48, 82)。当然、ネクタイも所有者が大幅に増加した(100←67, 89)。
 14. 女子大生は、宝石真珠付き指輪とネックレスの所有者が増えた。指輪(94←35, 62)、ネックレス(87←38, 68)。ブランドもののバッグも所有(87←38, 73)。アイシャドー所有の女子大生は低下(87←83, 62)。口紅は社会人並みに(98←87, 97)。
 15. いまの学生が、昔の学生よりも、よく行くようになった飲食店とはいえば、デパートの食堂(9←4, 11)、ファミリーレストラン(24←20, 35)、洋風ファーストフード(27←39, 49)レストラン(34←23, 32)、バー(8←1, 5)、飲み居酒屋(41←34, 46)、ラーメン屋(21←20, 25)、和風料理店(24←7, 12)、そば屋うどん屋(14←10, 14)、などだ。
 16. 逆にいまの学生が、以前より行かなくなった飲食店は、パブ(13←22, 3)、スナック(10←7, 4)、カフェバー(16←16, 10)、喫茶店(33←66, 48)。フルーツパーラー、ケーキ屋、甘味喫茶に学生が行く率は、7年前もいまも変化なし。



年代問わず、みんなが**家内安全**——時代効果

1. 「世間で評価」されるよりも「仲間内で評価」されたい時代だ。————— (36←30, 35)
 2. 友達は「多ければ多い方が」より「気のあった者だけ」でいい。————— (65←59, 63)

◆
 平成新人類と昭和新人類という世代的違いよりも、7年前といまという時代変化の方が顕著なポイントを見ていこう。まず、世界が小さくなっていることが分かる。酒の飲みかたも「大人数のコンパ」風よりも、「少人数で飲む」がいいという人が、少しだが増加している気配がある(68←60, 64)。

↑ ↑
 この2つが違う

3. 「競争」よりも「協調」を志向する。———— (85←76, 81)
4. 「立身出世」よりも「家内安全」を求める時代なのだ。———— (75←64, 73)
5. 「自分に厳しい」よりも「自分にやさしい」人がのさばる。———— (70←62, 74)
6. 「要領より努力」よりも「努力より要領」が増える。———— (46←40, 52)
7. 「過程が大切」よりも「結果が大切」になった。———— (51←43, 52)



いまの人々は、狭い仲間内で、競争せずに、ななああで、要領良く生きていく。そして、努力とか誠意を確認する場としての過程には、意味はなく、結果を求めるようだ。「のら猫」よりも「飼い猫」がいいという人も、少しだが増えた(62←58, 61)。



8. 「余暇より仕事」よりも「仕事よりも余暇」なのである。———— (62←55, 64)
 9. 「何もしないでボケーとしているときに生きがいや充実感を感じる」人が学生、社会人を問わず増えた。———— (15←10, 15)
 10. 「流行の店に疎いのが恥」が減り「難しい漢字を知らないが恥」が増加したのは、喜ばしい?。———— (75←63, 72)
- テレビの「平成教育委員会」などを見ていると、時代変化を感じる。



余暇志向は、年代を越えている。ボケーとしていたい人が増えたのは、世の中変化の激しさを追い掛けることに、少し、疲れたのだろうか。「流行の店に疎い」ことを恥と思う必要はない時代であるのも興味深い。情報疎遠は、平成新人類にとくに顕著な世代の特徴だが、時代全体としても、その気配があるようだ。



ちなみに多様なセンスについて「自信あり」の人が減った。五感センス、時代感覚、ファッションセンス、ライフスタイルなどのセンス、金銭感覚など、いずれも7年前の学生が高く、いまの学生、7年後の社会人グループは低い。社会人の変化は、加齢の結果ととらえれば、世代の変化ともいえるが、時代が変わった面も否定できない。



11. 先の見通しは「暗い」よりも「明るい」がいよいよ多い。———— (78←64, 70)
12. 若者が「主役になれない」より「主役の時代」と思うが増す。———— (74←63, 78)
13. 「麻雀が出来ないのが恥」が減り、年代を越えて「テニスが出来ないのが恥」と思う人が増えた。———— (71←58, 73)



時代の高速変化に疲れたようだとはいっても、気持ちが「暗い」わけではない。のんびり、のんきですね。若者の時代だともいう(ホントかな?)。まあ、これからの10年は、団塊ジュニアが大学生になり、若手社会人となっていき、若者市場も元気づくだろうが。



その他、いまの時代雰囲気を表す変化をあげておこう。

14. 「最近泣いたこと」のある人の率が上がった(27←21, 33)。
とくに男性でも泣く率が高まっているのが興味深い(19←14, 19)。



ファッション関連の持ち物検査をしてみよう。

15. 男性は、ブリーフ派よりトランクス派へ。ブリーフ所有率（63←83, 60）、トランクス所有率（86←55, 89）。パンツが時代の気分に関係あるかどうかは知らないが、ともかく、「トランクスな時代」である。
16. 女性は、無地のショーツが増えた（88←77, 91）。キャラクターものとシェイプタイプも減少。柄ものも、やや増え、レースのものは、学生では減り、社会人では72%が所有。ただ、ショーツの顕著な変化としては「無地な時代」というのが当たっている。
17. 浴衣を持つ人が増えた。男性（17←11, 16）、女性（70←53, 65）。
18. 国産時計の所有率では、アナログ派がデジタル派を圧倒。アナログ（73←62, 76）、デジタル（41←51, 31）。外国製時計は増加した（36←12, 26）。
19. オーデコロンよりも香水の方が伸びている。オーデコロン所有率（66←56, 39）、香水所有率（42←27, 34）。香水の男性だけの数字を見ると（22←8, 14）。
- ◆
20. クレジットカードの所有率（79←36, 46）、アスレチッククラブの会員証所有率（10←2, 6）、パスポート所有率（55←13, 30）。ただし、学生に関する限り、キャスター付きスーツケースの所有率は横這いである。
21. インテリア関連の所有率を見てみると変化が大きい。姿見や大型鏡（39←15, 36）、飾り棚やサイドボード（43←16, 41）、シングルベッド（39←41, 54）、羽ぶとん（43←24, 39）。いまの日本人は学生も、4割は羽ぶとんで寝ている！
22. ハイテク関連の所有率は、もっとも技術革新の激しい分野だけあって、変化が激しい。パソコン（17←7, 19）。女子大生だけ見ても2から10%へと急伸。ワープロ（35←2, 35）、音声多重テレビ（46←15, 40）、ビデオ（68←12, 48）、ビデオカメラ（20←2, 5）、CDプレーヤー（66←1, 78）、ビデオディスク（12←2, 8）
23. スキー、ゴルフ、スキューバダイビング用品の所有率は、学生の数字でみる限り、この7年伸びは見られない。スキー板（47←27, 26）、ゴルフクラブ（34←12, 11）、スキューバダイビング用品（4←1, 1）。

◆
趣味などの行動面での時代変化は、どうだろうか。

24. 人気下がった趣味は、読書（52←63, 52）、詩や小説を書くこと（4←9, 5）、作詞作曲（2←8, 4）、クラシックの楽器演奏（3←13, 9）、ポピュラーの楽器演奏（6←18, 8）、ポピュラーの歌唱（1←6, 1）、演芸鑑賞（2←6, 3）、切手やコインの収集（3←8, 3）、編み物手芸（7←12, 8）、写真（5←11, 6）、オーディオ（10←19, 12）、エアチェック（2←9, 2）、模型組み立て（3←6, 3）、野球（14←19, 15）、ソフトボール（4←9, 5）、卓球（7←12, 7）、ジョギング（4←8, 4）、サーフィン（2←6, 2）、オートバイ（5←14, 8）、ディスコ（3←13, 5）。アクティブな趣味スポーツの愛好率が下がった。
- ◆



25. やる率が増えたのはカラオケ（42←14, 54）、海外旅行（17←7, 14）、遊園地遊び（18←8, 25）、パソコン（14←10, 13）、競馬競輪（11←3, 14）、スキー（48←35, 42）などだ。学生ではスキー板の所有率よりもスキーを趣味とあげた人の方が多くなっている。どれもシンドサのない趣味ばかりね。

年を取ると安定志向だね—加齢効果

1. 「好き嫌い」よりも「良い悪い」で判断するようになる。—————（63←50, 50）
 2. 年を取ると「ポリシーがある」人が増える。—————（64←56, 55）
 3. 「人生目標がない」は減って「人生目標がある」が増える。—————（60←54, 56）

↑
 ここが、他の2つと違う

良くも悪くも、自分の判断が明確になってくる。ただ、「好き嫌い」での判断を避けるということは論理的に厳密になるかといえば、そうでもない。それは、「狭く深く」よりも「浅く広く」の傾向が強まってくる（52←43, 44）ことにも表れている。

4. 「刺激と変化」よりも「自分なりの生活」を求めるようになる。—————（65←54, 58）
 5. 「情報は多くあった方がいい」が減って「選別された情報だけでいい」が増える。—————（39←33, 33）

社会人となった昭和新人類は、流行とかセンスに強い世代だが、それでも、加齢の効果も出ている。

6. 「仲間のルール」よりも「社会の常識」が大切という人が増加。—————（58←49, 52）
 7. 「気楽な仕事や地位」より「責任ある仕事や地位」を求め出す。—————（54←47, 51）
 8. 「冒険」よりも「安定」を求め出す。—————（57←44, 47）
 9. 「フラフラ」しないで「コツコツ」生きるようになる。—————（64←54, 52）

6～9の変化が、大人になっていくということか。結婚する者が出てくることもあって、「異性の目を意識」よりも「同性の目を意識」するようになるのも注目される（56←38, 38）。「いま一番ほしいもの」の回答として上昇するものに次のような項目が出てくる。安定した暮らし（10←6, 3）、時間（31←23, 22）、健康（17←12, 12）、住居（19←4, 6）。

10. 「損得での行動は当たり前」は減って「損得だけで行動すべきでない」となる。———（72←65, 64）
 11. 「世の中は金で決まる」より「金ではない」がやや増える。—————（66←62, 60）

社会に出てみて、あるいは家庭を持ったりして、金銭主義から、逃れられる。

12. 「友人や仲間といる時」に生きがいや充実感を感じる人が減る。—————（44←65, 66）
 13. 「親しい異性といる時」に生きがいや充実感を感じる人が減る。—————（34←48, 49）
 14. 「家族といる時」に生きがいや充実感を感じる人が増える。—————（33←16, 18）
 15. 「仕事に打ち込んでいる時」に生きがいや充実感を感じる。—————（41←17, 17）

いずれも社会に出て、結婚年齢になっていくことでの自然の変化である。

変わらないもの—7年位では、変化しない項目

1. 「世の中は面白い」と思う人は、7割程度。————— (74←71, 71)
2. 「話題が豊富」である人の率は、約6割である。————— (64←61, 59)
3. 8割は「モーレツ主義」よりも「マイホーム主義」である。————— (80←78, 79)
4. 「マスコミは信頼できない」という人は8割存在する。————— (76←78, 76)
5. 「自分に出来そうなことだけやる」というより「自分の可能性を試したい」という人は8割にのぼっている。————— (81←82, 82)
6. 他人に「厳しい」よりも「やさしい」という人は約8割。————— (78←82, 80)
7. 「人生は成せばなる」と思う人は約6割である。————— (59←59, 60)
8. 「公」よりも「私」優先の人は約5割だ。————— (52←50, 52)
9. 「キリギリス」より「アリ」という人は約6割いる。————— (61←61, 61)
10. 人生は計算できず「可能性は未知数」という人は約9割。————— (87←88, 88)
11. 「一人」より「仲間」と行動することが多い人は約6割。————— (59←60, 61)
12. 「若いうちの苦労は経験のうち」と思う人は約9割いる。————— (91←90, 89)



時代効果が表れていないし、世代が変わっても変化がない。7年でなく、20年位たてば、変わるかも知れないが、ひとまず現在の若い日本人の安定した価値観の断面である。

編集本音

世代が変わったのか。時代が変わったのか。それとも年を取っての変化か。生活総研も10年たって、2時点の比較で、違いを見分けられるようになってきました。それにしても、いまの平成新人類は、かつての若者イメージと、少し違う面もありました。遊び志向はあるけれど、リアリストで、何より情報や流行に関心が薄れております。オジサン、オバサンから見ると、ハタチの人も、28歳の人も同じ「ヤング」かも知れませんが、違うんですね。30歳前の男が、「最近の若いモンは」と怒っても、それはそれで成立するのであります。担当は、実は、あんまり世代とか年代の違いを信じ(たく)ない関沢でした。なお、この生活新聞データの詳しい特報が、今年中に出る予定です。

11月の発刊物

☆英語版レポート「岐路にたつ日本サラリーマン」が出ます(税込36,050円)。外資系でトップが日本語を解さないクライアントにおすすめを。海外マスコミも注目か(?)。
☆既刊特報「ハイスクール白書」に続いて、特報「裏の話(仮題)」と特報「海外ネット通信(仮題)」が出ます。ナマの生活データばかり。プレゼン・ヒントに。